



固有種

が

教えてくれること

北海道・本州・四国・九州に  
すむ固有種

今泉忠明 監修



固有種  
が  
教えてくれること

北海道・本州・四国・九州に  
すむ固有種

今泉忠明 監修





## 監修のことば

日本には野生のライオンやチーター、サイやゾウなどがいません。いわゆる迫力のある大形獣や猛獣がほとんどいないのです。このような日本の動物相をすばらしいと思う人は少ないかもしれません。日本にはモグラ、ネズミ、コウモリのなかまがいて、有名なものでもイリオモテヤマネコ、かわいさからしてもせいぜいヤマネ、猛獣といってもヒグマ、ツキノワグマぐらいです。日本のほ乳類は小形で、地味で、あまりさえないものが多いのです。でも、それをつまらないとか情けないと思ったら認識不足というもので、日本のほ乳類相は極めて価値が高いものだと思います。ほ乳類に限らず鳥類も、は虫類も両生類も、みんな価値が高いものなのです。

日本の動物相の第一の特徴は、日本にしかない種類がとて多いことです。陸生ほ乳類だけでも107種、そのうち日本だけに見られるものは48種もいます。これがすごいのかどうかは、たとえば同じ島国のイギリスと比べるとよくわかります。イギリスには陸生ほ乳類が42種いますが、その中に固有種はいないのです。

豊かな動物相をもつわけは、日本列島が南北に長く、気候的に亜寒帯、温帯、亜熱帯まで変化に富み、地形的にも平地から標高3000mを超す山岳地帯までであるということが1つあります。

2つ目は、北からやってきた種類や南からやってきた種類など、いろいろな地域からの移住者が混生しているということがあります。そして、北海道や本州・四国・九州、それとその周辺に点在する島々、長く南西方向に延びる琉球列島などのように、大陸、あるいは本土から切りはなされて、島となったりつながったりした年代が、古かったり新しかったりすることも、日本の固有種を増やしています。進化の程度がちがう動物が日本にやってきたわけです。

このように日本列島は世界にも貴重な、めずらしい地域だということわかります。地味な動物しか見られなくても、本当の価値を認めて、その動物たちがくらす自然環境をしっかりと保全していきたいものです。

## 今泉忠明 (いまいずみただあき)

ほ乳動物学者。1944年東京都生まれ。東京水産大学(現・東京海洋大学)卒業。国立科学博物館でほ乳類の分類・生態を学ぶ。文部省(現・文部科学省)の国際生物計画(IBP)調査、環境庁(現・環境省)のイリオモテヤマネコの生態調査等に参加。ほかにトウホクノウサギやニホンカワウソの生態、富士山の動物相、トガリネズミなどの生態調査を行う。上野動物園の動物解説員を経て、現在は房総半島や奥多摩などで動物調査を行っている。「ねこの博物館」館長。日本動物科学研究所所長。富士山自然誌研究会会員。著書・監修に『猫脳がわかる!』(文藝春秋)、『学研の図鑑LIVE 動物』(学研)、『ねこほん 猫のほんねがわかる本』(西東社)、『わけあって絶滅しました。』(ダイヤモンド社)、『ざんねないきもの事典シリーズ』(高橋書店)など多数。



## もくじ

監修のことば……2

固有種って何だろう?……4

## ほ乳類

ニホンザル……6

ムササビ(ホオジロムササビ)……8

ヤマネ(ニホンヤマネ)……8

ニホンモモンガ……9

ニホンリス……9

ニホンイタチ……10

ニホンアナグマ……10

シントウトガリネズミ……10

アズマモグラ……11

ニホンウサギコウモリ……11

ニホンカモシカ……12

ニホンノウサギ……13

## コラ4

絶滅した固有種

ニホンオオカミとニホンカワウソ……14

## 魚類とエビ・カニ

ヤマトイワナ……15

サツキマス(アマゴ)……16

アカメ……16

シシャモ……17

アブラハヤ……17

ニゴイ……18

アジメドジョウ……18

ギギ……18

カワヨシノボリ……19

ニホンザリガニ……19

サワガニ……19

ミヤコタナゴ……20

ムサシトミヨ……21

## コラ4

琵琶湖とその水系の固有種……22

## 鳥類

ヤマドリ……23

カヤクグリ……24

アオゲラ……25

## コラ4

日本固有ではない国の天然記念物……26

## 両生類・は虫類

ニホンイシガメ……27

オオサンショウウオ……28

モリアオガエル……30

カジカガエル……30

ニホンヒキガエル……31

ダルマガエル……31

アカハライモリ……32

タワヤモリ……32

ニホンカナヘビ……32

ニホントカゲ……33

アオダイショウ……33

## コラ4

「ジャパニーズ・ビートル」マメコガネ……34

## 昆虫と小さい生きもの

ギフチョウ……35

ニホンミツバチ……36

ムカシトンボ……36

カワラバタ……37

シャープゲンゴロウモドキ……37

ルリボシカミキリ……38

ヒゲナガオトシブミ……38

ゲンジボタル……39

コハクオナジマイマイ……40

トウキョウコシビロダングムシ……40

シーボルトミミズ……40

キムラグモ……40





## 日本列島にすむ固有種

2巻で紹介するのは、北海道、本州、四国、九州本島に生息している日本の固有種です。かつてはユーラシア大陸の一部であり、約7000年前に今と変わらないかたちとなった日本列島には、どんな固有種がいるのでしょうか。

6ページから紹介するのは小さい島々をのぞいた地域の固有種です。



# 固有種って何だろう？

世界の固有種例

地球には、何種類くらいの生きものが生息していると思いますか？  
 今のところ、人の目で確認されているものは約175万種ほどですが、おそらく未発見の生きものもたくさんいるでしょう。  
 それらも合わせると、推定約3000万種の生きものが、この地球上に生息していると考えられています。  
 そのうち特定の地域だけに生息する種を、その地域の「固有種」、あるいは「特産種」などといいます。そして日本は、地球上でも、とりわけ固有種が多い地域として知られており、それは日本の自然がいかに豊かで個性的であるか、ということにほかなりません。  
 この広い地球で、小さな島国である日本にしか生息していない、さらには日本の中でもごくせまい地域にしか生息していない種がいることは、とても不思議で面白いものです。  
 日本に固有種が多い理由やその意味、どんな固有種がいるのか見てみましょう。



▲ニホンウサギコウモリ。

## 種ってどういう意味？

地球で生命が誕生してから38億年、そのあいだに生きものはさまざまな種類が生まれました。そこで、地球上の生きものを整理するために、似た特性やすがたかたちをもつ生きものを1グループとして、その中でさらに中くらいのグループに分け、さらに小さいグループに分け……という具合に分類しています。「種」は、生きものを分類するうえで、基本の単位です。肉眼では見えないほど小さい細菌から巨大なクマまで、生きものはすべて、最終的には「種」で表すことができます。

	人間	イヌ	カブトムシ	納豆菌
門	脊椎動物門	脊椎動物門	節足動物門	フィルクテス門
綱	ほ乳綱	ほ乳綱	昆虫綱	パチルス綱
目	霊長目	ネコ(食肉)目	甲虫目	パチルス目
科	ヒト科	イヌ科	コガネムシ科	パチルス科
属	ヒト属	イヌ属	カブトムシ属	パチルス属
種	ヒト	タイリクオオカミ	カブトムシ	パチルス・サブチリス
亜種		イエイヌ		パチルス・サブチリス・ナットー(系統)



# ニホンザル



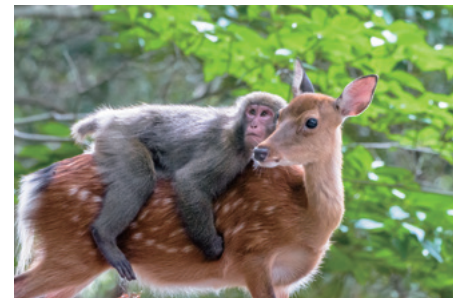
▲地上より樹上を好む。おもにブナなどの冬に葉を落とす森林がすみかだ。

## 文化的な行動をとるサル

ニホンザルは人と同じく昼行性の種です。昼間は葉っぱや木の芽、種子や果実、昆虫やカニといった食べものを求めて群れで移動し、夜は樹上や岩場ですごします。運動神経はばつぐんで、樹上を自在に渡り歩き、急なげも器用に歩き、泳ぎも得意です。

また、群れのだれかがはじめた文化的な行動が、なかまに広まることが知られています。たとえば宮崎県幸島の群れは、サツマイモを海水で洗って塩味をつける行動をみんなしますし、長野県志賀高原の群れは、温泉に入った雪玉で遊んだりすることが当たり前になっています。

分類 ● サル目オナガザル科マカク属  
 体長 ● メス 47～55cm、オス 53～60cm 体重 ● メス 8～16kg、オス 10～18kg  
 数頭のオスをふくむ 20～150頭の母系の群れでくらす。子ザルの顔はうすもも色。  
 分布 ● 本州、四国、九州、屋久島  
 標高 1500mまでの山地の落葉広葉樹林に生息。世界のサルは多くが赤道付近に分布するなか、寒冷地にすむ種はめずらしく、下北半島のニホンザルは世界で最も北にすむサル「スノーモンキー」として知られている。



▲屋久島に分布するヤクシカ(ニホンジカの亜種)の背にまたがるヤクシマザル。



▲ほおぶくろ  
 ほおの内側に「ほおぶくろ」とよばれる、皮がよくのびて、ぶくろのようにふくらむ部分がある。ゆっくり食べられない状況のときは、ここに食べものをつめて、あとでゆっくり食べる。



▲真っ赤な尻  
 尻と顔の赤い色は、強さを表すしるし。よりあざやかな赤のほおがモテる。皮ふが厚く固くなった2つの「尻だこ」は、岩や樹上に座るときのクッションだ。



▲人と同じく母親のお乳を飲んで育つ。生後3か月は母親の腹の毛にしがみつき、片時もはなれない。1年で乳ばなれする。





# ムササビ (ホオジロムササビ)

## 飛膜を広げて空をとぶ

ムササビは夜行性です。日がしずんでしばらくすると、眠っていた木のほらから出て活動をはじめます。4本のあしをいっぱいにはばして飛膜を広げ、木から木へスイッと滑空して食べものを探します。鳥のように羽ばたくことはしませんが、ひととびで100mも移動することができます。



▲グライダーのように滑空！手首に飛膜をピンと張るための特殊な軟骨がある。



▶指にはするどいかぎづめと、しめった肉球がついているので、木からすべり落ちない。からだに対して長くて太い尾は、滑空時のバランスをとり、方向チェンジに役立つ。

分類 ●ネズミ目リス科ムササビ属  
体長 ●30～48cm  
体重 ●1kg前後  
樹上でくらすリスのなかま。おもな食べものは樹木の若葉や花、種子など。  
分布 ●千葉県をのぞく本州、四国、九州  
里山～標高1800mくらいまでの森林に生息、大木のある社寺林や、神社など建物の屋根裏などにすみつくことも多い。

# ヤマネ (ニホンヤマネ)

## 1属1種の固有種、ヤマネ

ヤマネのなかまはアジアではほぼ絶滅し、日本にすむのは、取り残された「遺存種」とよばれるこの1種だけ。また、すがたも生態も、数百万年前の祖先に近い「生きた化石」ともよばれています。

およそ半年間も飲まず食わずで冬眠するすがたから、「コオリネズミ」「ナマケネズミ」などと地方ごとのよび名もあります。



▲背中の中にある黒い線と、毛がふさふさした尾が特徴。黒い線は木の枝にまぎれるための保護色といわれている。

分類 ●ネズミ目ヤマネ科ヤマネ属  
体長 ●6.1～8.4cm  
体重 ●夏は14～20g、冬眠前は34～40g  
樹上でくらし、おもに夜に活動する。好物は小さい昆虫で、植物の果実や種子、みつなども食べる。  
分布 ●本州、四国、九州、隠岐(島後)  
地域ごとに毛の色味や顔つきがちがう。低山帯～標高2500mまでの山の森林に生息する。

# ニホンモモンガ



▲完全な夜行性のうえ数が少なく、限られた森林にしかすんでいないため生態は不明なことも多い。観察しやすいエゾモモンガと大きなちがいはないと考えられている。

## ニホンモモンガとエゾモモンガ

日本には固有種であるニホンモモンガのほかに、北海道にエゾモモンガがいます。どちらもよく似ていますが、2つは別種であり、ブラキストン線(1巻22ページ)が分布の境になっています。そしてエゾモモンガはユーラシア大陸に分布するタイリクモモンガの亜種で、日本固有種ではありません。

モモンガもムササビと同じような飛膜をもち、通常は20～30m、ときに100mほど滑空することもあります。

分類 ●ネズミ目リス科モモンガ属  
体長 ●14～20cm 体重 ●150～200g  
ムササビやヤマネが日没後すぐ、ときに昼も活動するのに対し、こちらは完全夜行性。おもな食べものは若葉や果実、種子。  
分布 ●本州、四国、九州  
標高1500～2500mの亜高山帯に生息。高い木の樹上で一生をくらし、キツツキが開けた穴などをねぐらにしている。

# ニホンリス

## ニホンリスは冬眠しない

筋肉の発達した後ろあしで幹をけて樹上を自由に動き、ジャンプも得意、地上もよく走りまわります。おもに早朝と午後のおそい時間に活動し、夜は樹上にこしらえた巣で眠ります。食べものは木の実のほか、キノコや果実、若葉、木の皮などです。

冬眠はせず、秋になると食べものを貯える「貯食」を行います。木の実を地面に浅くうめたり、木の枝の又にはさんだりしておき、いざ冬になると、においと記憶をたどって探しますが、別のリスが貯えたものでも、見つけたらおかまいなしに食べます。

分類 ●ネズミ目リス科リス属  
体長 ●16～22cm 体重 ●250～310g  
年に2回、毛が生え変わり、夏毛は赤茶色、冬毛は灰色がかった茶色。冬毛のときは耳の先にふさ毛が生える。  
分布 ●本州、四国、九州、淡路島  
中国地方以西で生息数がかなり減っており、九州と淡路島では絶滅したかもしれないといわれている。平地～標高2500mまでの低山帯～亜高山帯にすむ。低山のマツ林に多い。



▲ニホンリス。台湾に分布するタイワンリスが日本で野性化し、ニホンリスの生息場所をうばう問題が起きている。



# ニホンイタチ



## こう見えて活発で強いハンター

ニホンイタチは動きがとてすばしっこく、カエルや昆虫のほか、ときには自分よりも大きなえものもしとめる、肉食のハンターです。ネズミをとるときは地下の巣穴に入り、魚をとるときは水にも入ります。

ふだんは単独で昼も夜も活動しています。危険を感じると、尾のつけ根にある臭腺から、くさい液体を飛ばします。

◀ニホンイタチ。西日本の平野では、別種のチョウセンイタチにすみかをうばわれつつある。

分類 ● ネコ目イタチ科イタチ属  
 体長 ● メス 19 ~ 26cm, オス 29 ~ 37cm  
 体重 ● メス 115 ~ 175g, オス 290 ~ 650g  
 メスはオスの半分くらいのサイズ。  
 分布 ● 本州、四国、九州とまわりの島、北海道と南西諸島(移入)  
 里山の平地 ~ 標高 1700m 近い高原の水辺に生息する。

# ニホンアナグマ

## 夜行性で見つけにくい身近な生きもの

穴熊という字のとおり、穴を掘るのに適したすどいつめをもっています。このつめで地下に迷路のような巣穴を掘り、メスは子連れで、オスは単独でくらしています。手に入るものなら昆虫、カエル、果実など何でも食べる雑食性ですが、特に大好きなのはミミズです。

分類 ● ネコ目イタチ科アナグマ属  
 体長 ● メス 55cm 前後、オス 61cm 前後  
 体重 ● 5.2 ~ 10.5kg, オス 5.9 ~ 13.8kg  
 ぱっと見よく似たタヌキやハクビシンなどとともにムジナとよばれてきた。地方ではマミ、ササグマとも。  
 分布 ● 本州、四国、九州 都市近郊 ~ 高山の森林に生息する。

かつてはユーラシア大陸に分布するアナグマの亜種とされていましたが、研究が進み、近年は独立種で日本固有種とされています。



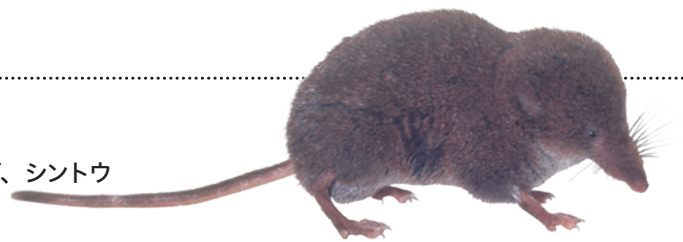
▲ニホンアナグマ。むかし話に出てくる、人を化かすムジナは、じつはアナグマであることも多い。

# シントウトガリネズミ

## ネズミではなくモグラのなかま

日本には固有種のトガリネズミのなかまがいくつかありますが、シントウトガリネズミはその中で最も広いはんに分布する種です。といっても、生息数はそれほど多くないと考えられています。

落ち葉やふかふかの腐葉土が積もったところにすみ、昆虫やミミズ、クモなどを食べます。昼も夜も活動します。



日本固有種のトガリネズミのなかま

種	分布
アズミトガリネズミ	本州中部、北・中央・南アルプス、奥秩父、志賀山など
ニホンジネズミ	本州、四国、九州、伊豆諸島、トカラ列島など
ワタセジネズミ	沖縄諸島、奄美群島
オリイジネズミ	奄美大島、徳之島、加計呂麻島
カワネズミ	本州、九州

分類 ● モグラ目トガリネズミ科トガリネズミ属  
 体長 ● 5.8 ~ 6.8cm 体重 ● 4 ~ 7g  
 ネズミという名前がついているが、モグラのなかま。ホンシュウトガリネズミとエゾトガリネズミの2亜種がいる。  
 分布 ● 本州の京都府以北、紀伊半島、四国、佐渡島  
 どこも分布域はせまく、点々としている。山岳地帯の森林や低木林にすんでいる。

# アズマモグラ



▲視力は光を感じるていどだが、鼻はとてよい。前あしは大きく、後ろあしはとて小さい。

分類 ● モグラ目モグラ科モグラ属 体長 ● 12 ~ 16cm 体重 ● 48 ~ 127g  
 広い平野部では大形、山間部では小形のものが多い。大形の体毛は茶色っぽく、小形は黒っぽい。  
 分布 ● 本州の中部以北(関東~東北地方)、紀伊半島、京都府付近、広島県北部、四国の剣山、石鎚山など  
 低地から標高 2000m に生息するが、多いのは水田や農耕地、草原。

# ニホンウサギコウモリ

## 頭よりも耳が長いコウモリ

昼間は休み、夜に飛びまわって昆虫などを食べます。樹木のほらをねぐらとしますが、樹木が少なくなった生息域では、家の天井裏など、人工の建物も利用するようになりました。

ニホンウサギコウモリのつばさは、幅が広くて短めの「広短型」とよばれるタイプで、木々のあいだをぬうように飛ぶのを得意としています。ホバリング(空中停止)もできます。

初夏のころ、出産と子育てのためにメスが 10 ~ 150頭の集団をつくります。

日本固有種のヒナコウモリのなかま

種	分布
モリアブラコウモリ	本州東北・中部・近畿・中国地方、四国
コヤマコウモリ	本州中部・東北地方
クビワコウモリ	富山県、石川県、岐阜県、長野県、静岡県、山梨県、埼玉県、千葉県、東京都、茨城県、栃木県、群馬県、福島県
クロホオヒゲコウモリ	本州、四国、九州
ヤンバルホオヒゲコウモリ	奄美大島、徳之島、沖縄島
リュウキュウユビナガコウモリ	奄美群島、沖縄諸島、石垣島、西表島
リュウキュウテングコウモリ	奄美大島、徳之島、沖縄島
クチバテングコウモリ	対馬

## トンネルの手入れが命

地下に全長 100m にもなるトンネルを掘りめぐらせてくれています。トンネルは大切なえさ場であり、巣への通り道でもあるので、まめに見まわり、手入れをします。

大きな前あしは、てのひらが外側を向いており、土がかきやすく、すくいやすいかたちになっています。大好物は何といってもミミズで、長いつめはミミズを食べるときのフォークにもなります。

日本固有種のモグラのなかま

種	分布
コウベモグラ	中部以南の本州
エチゴモグラ	新潟県
サドモグラ	佐渡島
ミズラモグラ	広島県 ~ 青森県
センカクモグラ	尖閣諸島
ヒミズ	おもに本州、四国、九州
ヒメヒミズ	本州、四国、九州



▲ニホンウサギコウモリ。片手に乗るくらいの大きさだ。

分類 ● コウモリ目ヒナコウモリ科ウサギコウモリ属  
 前腕長 ● 4 ~ 4.5cm  
 体重 ● 5 ~ 13g  
 体毛はうすい褐色 ~ 灰褐色。ウサギのような長い耳が特徴的なのでこの名がついた。  
 分布 ● 北海道、本州、四国、九州